

—京阪本線・交野線(枚方市)連続立体交差事業の概要—

京阪本線・交野線連続立体交差事業は、道路と鉄道の平面交差により阻害されていた枚方市の都市機能の回復を図るため、昭和 50 年度に大阪府を事業主体とする都市計画事業として着手し、19 年の事業期間と、約 357 億円の事業費をかけて平成 7 年 3 月に完了しました。

その結果、1 日の遮断時間が 8~9 時間に及んでいた踏切 5 ヶ所が除去され、都市計画道路 4 路線、枚方市道 4 路線と立体交差化し、あわせて関連側道が整備されました。



■事業概要

事業主体：大阪府

事業区間：京阪本線 約 1.8 k m
交野線 約 0.6 k m 計 約 2.4 k m

事業費：約 357 億円

本事業の主な経緯

昭和 50 年 3 月 都市計画決定
昭和 51 年 1 月 事業認可
平成 5 年 3 月 鉄道築造完了
平成 7 年 3 月 事業完了

■主な事業効果

- ・踏切事故および交通渋滞の解消
- ・高架化に伴う鉄道の騒音振動の減少
- ・新たに創出された高架下空間の有効利用
- ・平面鉄道で分断されていた市街地の一体化、生活動線の円滑化



- ・一定区間の踏切を除去し、踏切による交通渋滞が解消されました。
- ・歩道を整備することで、歩行者の安全を確保し、交通の流れをスムーズにしました。



- ・連続立体交差事業に併せて、駅前広場整備を実施したことでバス・タクシー・自家用車の乗り換え利便性が向上しました。
- ・駅舎施設などが改良され、高齢者や身障者をはじめ鉄道を利用する人すべての利用者の安全性・利便性が向上しました。



- ・連続立体交差事業によって新たに生まれる鉄道の高架下空間の一部を、商業施設として利用。